

# 教科教育課だより

～未来ある子供たちのために For Our Children～

第22号 R元. 9.18

茨城県教育研修センター  
教科教育課

☎0296-78-3213 (直通)



7/30, 8/2に行われた授業がもっと楽しくなる！音楽科基礎研修講座では、子どもの思いを生かした音楽づくりや「もっと聴きたい！」と子どもからリクエストがくる鑑賞の授業の進め方を学びました。

## リトミックを用いた音楽づくり

「表現領域（音楽づくり）の授業の工夫改善」では、つくば市立春日学園義務教育学校の菊池先生から、「耳に集中」し、音色やリズムを感じ取っていく方法や、思いを引き出しながら「おもちゃの音楽づくり」につながる提示の仕方などを学びました。

### 実践例1 どこを叩いているのかな？ ポディーパーカッション♪

①床→足→お腹→頭と叩く場所を変えていき、音の違いを確認

②目をつぶり、下から順に先生と一緒に叩く  
※聴こえてくるのは音だけ。見えないからこそ、音の違いを集中して聴きます。

### 実践例2 アイディアいっぱい！リズム回し♪

1 音を鳴らさず、楽器を手渡しできるかな？  
すずやタンバリンを、音を鳴らさないように隣の人に渡していく  
※音を出さないことで、逆に音に注目していく活動です。

2 打つのは一拍分だけ！拍の流れに乗って打てるかな？  
リズムパターンの1拍分の音符だけを叩いて回す  
※音符と拍をよく聴いていないとうまく打てないリズム遊びです

## くいかえし聴きたくなる鑑賞活動

講義・実技「鑑賞の授業づくりの工夫改善」では、A班は筑波大学非常勤講師の中島寿先生、B班は筑波大学附属小学校の高倉弘光先生に、児童が身体を動かし、音楽を理解しながら繰り返し聴きたくなる鑑賞の授業づくりを学びました。中島先生からは、「ねらいに合った教材・演奏の選択や、この演奏でどんなねらいが立てられるか考えることの大切さ」を、高倉先生からは、「どのように聴かせると、子どもは楽しいかを考えながら、何回も音楽を聴いて考えていくことの大切さ」を教えていただきました。

### 実践例3 シンバルを演奏するふいをしながら鑑賞しよう(カルメン前奏曲)

シンバルを演奏するふいをしながら鑑賞をする。

【鑑賞前】実物のシンバルの大きい音、小さい音を聴く。

【1回目】A(シンバルの音が鳴っている部分)を聴く。  
シンバルの音の大きさによって、演奏のふいを変える児童も出る。  
違う動きをしている児童には、「どうしてそんなふうにしたの？」と質問する。理由が言えたら、音楽を十分感じ取っている。

【2回目】Aと続きのBの部分聴く。  
Bにはシンバルの音がないので、音楽が変わったことに気づく。

【3回目】最初から最後まで聴く。  
再びシンバル部分が登場してくることが分かる。  
この曲の構成がABAであることが、シンバルのふいをすることで理解できるようになる。

【4回目】振り返りとして聴く。  
身体を動かしながら分割して聴く。  
楽しみながら何回も曲を聴くことができる。



### 実践例4 ねこの鳴き声に合わせて踊ってみよう(おどるこねこ)

机のない、広いスペースで行う。

【1回目】猫が登場する音楽であることを伝える。  
Aの部分(猫の鳴き声が入っている部分)を座って聴く。  
【2回目】2人1組になり両手をつなぐ。  
猫の鳴き声が聞こえたら、手を上にあげ、身体を入れて回る。  
音楽に合わせて、速度の揺れなどにも気づく。  
(「なべなべ そこめけ」と同じ動き。児童の実態に応じて、片方だけつないで回るなど、動きを工夫する。)  
【3回目】最初からBまで、踊りながら聴く。  
Bの部分には猫の鳴き声はなく、音楽が変わったことに気づく。  
【4回目】続きの音楽を予想した後、踊りながら全体を聴く。

Aの部分再び出てくることが分かる。  
Aよりも音楽が短いことに気づく。

【5回目】音楽の流れを振り返り、もう一度聴く。

